

# STATE

2000年 X月X日

ユウは、中東アジアから大鷲に導かれた東へ向かう旅の途中、ある廃墟の村で住民同士の争いに巻き込まれた。どの土地でも同じように水や食料をめぐって争いがおこっている。小さな小屋を見つけてもぐり込むと、奥にはまだ若い、一人は少しは年長に見える二人の男達がやはり隠れ場所を求めて潜んでいた。ユウを見ると仲間だと感じたのか、まだあどけなさの残る人懐っこい笑顔を見せた。一人は巻き添えを食ってけがをしている。彼らもまたよそのものだ。二人は中国の貧しい村に生まれたが、自由な海と豊かな暮らしに憧れて村を出て、しばらくは大きな船に乗ることもできる楽しい暮らしも少しはあったけれど、行き着いた国で暴動に巻き込まれて結局は難民になってしまったという。彼らは、自分達の辿った運命について二人で取り合うように代わる代わる一氣に話した。よく見ると若い方の男の傷はかなり深そうだ。彼はかまわず蒼ざめた顔を輝かして話続ける。

色々な事があったけれど、やっぱり海はいいさ。鯨が出たのって言ったら、みんな本当の海を知らない。何日も何週間も海に出てみたら、海にはな～んにもありやしない。ただ深い深い、俺達なんかにはわからないほどの底知れない深くてまっ暗い海と高くて広い空があるだけさ。港を出る時には、今度はでっかい船が大丈夫だと思ってても一度海に出たらそんなものは木の葉っぱと同じさ。ゆらゆら頼りなく漂ってるだけのね。そりゃ恐ろしいよ。この世のなかに海と空と俺しかいないって思ったら本当に怖いよ。腹が減って情けない気持ちで山の中にひとりぼっちで居たってあんな気持ちになるもんじやない。だから、昔から本当に勇気のある奴は海に出るのさ。わけもないのに恐ろしいと思う自分自身が一番の手強い敵なんだ。そんな時、鯨やら鯨やら出てきたら、嬉しい可愛いわって思うくらいだ。あいつらちゃんと生きてるからね。こんな何にもない海でさ。だから、たぶん、鯨取りって奴らは、あのどでかい恐ろしい鯨が好きだったんだと思うよ。広い海で鯨に出会った時には、兄弟にでも出会ったみたいにならないうちに嬉しかったんだ。きつと。だけど、どんな勇敢な奴でも、夜にはかなわない。夜の海ってのを知らないだろ。何もかも真っ黒になって、空も海もどっかに消えちゃう。お星様だけは優しいがね。俺は思うよ。あの世ってところは、夜の海だって。

恐ろしいと思う自分さえもなくなって... あの世じゃ、お星様は天使さ。...

彼ら二人は、また海に出るつもりだと言った。そしてその船を見つけたという。国籍のないあてのない奴を乗せてくれる船が南の港に着くはずだと。

しかし、夜が明けるよりも早く若い男は息を引き取った。

もう一人の男が言った。

勝手に死んじまいやがって。やっと、海に出られるっていうのに。こいつの話はみんな嘘なのさ。俺達はまだ海なんか見たこともないんだ。俺達の村は、どっちを見ても見渡す限り 裸の山ばかりで、木も生えやしない。俺はこいつの夢物語につられてとうとう出て来ちゃった。でも、あんたは、その南の港に着くっていう船に乗ったらどうだい。これは確かな話だ。多分ね。俺は行かない。

こいつをとむらって山に連れて帰ってやるさ。

裸山の夜空だって、そう捨てたもんじやないさ。

翌朝、ユウは一人になった男に別れを告げた。

そして南へ向かった。死んだ男の海を見るために。



## 中島月通信

踊る人形

猫が一人前の男女になった証に、ある夜ある場所に集まって、じゃ猫じゃ」と踊るそうなの。これは、本当。その証拠にその場所はこの鎌倉の近き佐々木とあります。たしかに見た人から聞いたわけじゃあないけれど、この話は若くもあって、近所の人には皆それを信じて疑わない。ちなみにそこは、田谷の洞窟と言所の近くでその名も踊り場と言う。そのあたりはラドン温泉があったり、有名屋敷であるというのでちょっと行ってみたいなど思っていた所である。ただし今では車の交通量の交差点となっていてある所であるから、多少の違和感はあるけれど、猫の方ではそれが気にならない前から決まっていたのだからそれほど問題はないのだから。猫は、猫を見たらそれは楽しいものだそうで、だれしも一度は見てみたいと思うが、そう簡単にはいけれど、とにかく猫は、だれでも一度は必ず行くらしい。ともかく、この世は猫が踊るくらいだから、人形達が夜中箱から出て踊るといふ話もそう不思議はない。何かな夜中踊るのは西洋人形で、日本の人形はただ泣いているばかりじゃあないだろうと気がする。ミルクホールのような店では西洋人形も日本の人形でも、いちを着かしたビクター犬やら、背囊がついたノラクロや、野球帽がぶつた男の子達が着てましたお姉さんだの、新入りの黒んぼキュービーだつてなんでも構わず置けるから、いったい夜中にはどんなことになっているのだから。あのおかっぱの可愛らしい人形が、暗い奴だなんて嫌われたりしているのかと思うとちょっと心配にもなる。たか、新入りの置き場所には結構気を遣う。時々お客様から「こんなに、古いものは気持ち悪くありませんか。なんて聞かれるけれど、この状態で呪いを持ち続けるなんてを想像がつかない。

一年くらい前、夜中時過ぎに店の電話が鳴った。「あう、先日お店で、木の丸い電話台買ったんですけどお～」なんか訳ありな女の子の声。は、お嬢さんかしてあるんですよねえ」「いえ、特には。」「なんか、取り憑かたてなる死すう。」「あ、今夜はもう遅いですから、明日早い時間に来て下さいね。」「と、それっきりその女の子からは連絡はない。それにしても、電報台でくとはなんて奴なんだ。おおかた人形とか、櫛とかに取り憑き損なつたんだろ。

呪いとか恨みとか暗いこと言っていないで、ミルクホールに踊り出しやい。

鯨よ 鯨よ お前の国は 涯もなく  
嵐の 吠える 大海だ  
力こそ 正義のところで 力の巨人 涯知らぬ  
海原の 王者よ

鯨の歌



## INFORMATION

ミルクホールタイムスより お客様へ

ご覧のミルクホールタイムスは、毎月一度の予定で発行しております。また、裏面インフォメーションでは、ミルクホールの蚤の市や、青空市などのアンティーク最新情報を掲載しております。多忙でお店に来られない方も最新の紙面を、インターネットのホームページ <http://www.milkhall.co.jp/>にてご覧になれます。ミルクホールタイムスへのご希望、感想、投稿などお待ちしております。DM郵送ご希望の方は、FAXなどでお申し込み下さい。

ノラクロ人形 14,000 オキュバイド陶人形 8,800~